

新しい「地域づくり」が始まっています

～ いつまでも住み慣れた地域で安心して暮らし続けるために ～

皆さんは、10年後、20年後、自分の住むまち・地域をどのようにしたいですか

今、全国各地で、住民も行政も一緒に協働する新しい「地域づくり」が始まっています。

その中でも一番の柱は、住民が主体となった「支え合い・助け合い活動」の推進です。

高齢者の生活を支えるための地域づくり



介護度が重くなったり、ひとり暮らしや高齢者のみの世帯になっても、住み慣れた地域で安心して暮らすためには、医療や介護だけでなく、生活を続けるために必要な買い物や掃除等の手助け、高齢者が生きがいを持って参加できる活動が、さらに必要になると見込まれます。

このため、従来までの事業者が行うホームヘルプやデイサービスだけでなく、住民が「支え合い、助け合い活動」として実施する取り組みも含め、多様な担い手によって高齢者の生活を支える体制を、地域の中に作っていくことが必要になっていきます。

新しい「地域づくり」への取組状況

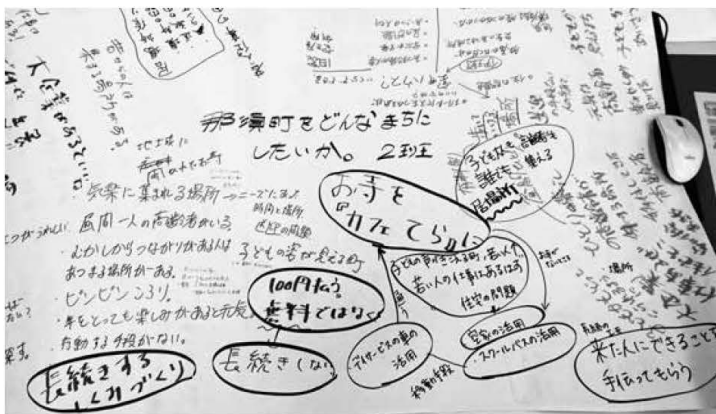
町では、住民・民生委員・NPO法人・ボランティア団体・介護事業者などの多様な主体が情報を共有し、連携を強化する場として「那須町生活支援体制整備協議会」（通称：なすあつた会）を設置しました。また、助け合い活動の創出や利用を推進する調整役として「生活支援コーディネーター」を那須町社会福祉協議会に配置しています。

なすあつた会では、長期的な目標として「目指す地域像」を設定し、その実現に向けた取組みについて協議しています。

「目指す地域像」を実現するため、住民の皆さんも地域のことを「自分のこと」として考え、安心して暮らし続けることができる地域を一緒に作っていきましょう。

目指す地域像は「自分らしく生きられるまち」

いつでも集える居場所があり、見守り合いながら、困ったときには助け合える仲間がいて、みんながいきいきと活躍できる



なすあつた会のメンバーが「那須町をどんなまちにしたいか」をテーマに意見を出しながら、目指す地域像を決定しました

「自分らしく生きられるまち」を目指して、次の5つの事が実現できる地域づくりを、皆さんと一緒に進めていきます。

1. 居場所

高齢者も、子どもも、若い人も、障がい者も、誰でも、いつでも、気軽に集まることが出来る居場所があり、定期的にみんなが楽しく参加できる伝統行事、地域のイベントなどがある。

2. 見守り・交流

近所の人、地域の人とあいさつ、交流、コミュニケーションを取ることで、顔見知りになり、閉じこもりや、心身状況の変化などに気づき、適切な支援へつなぐことができる。

3. 小さな助け合い

居場所・見守り・交流から、仲間ができ、ちょっとした困りごとは、助け合いで解決できる。

4. みんなが活躍

高齢者も若い人も、自分の能力や特性を活かし、働いたり、社会参加したりできる。

5. 自主性の尊重

「集いたい」、「助けたい、助けられたい」、「働きたい、社会参加したい」など、それぞれの意思や自己決定が尊重され、実現できることにより、いつまでも自分らしく生きることが出来る。